snow safety equipment

Mode d'emploi
Instructions for use
Gebrauchsanweisung
Istruzioni d'uso
Modo de empleo

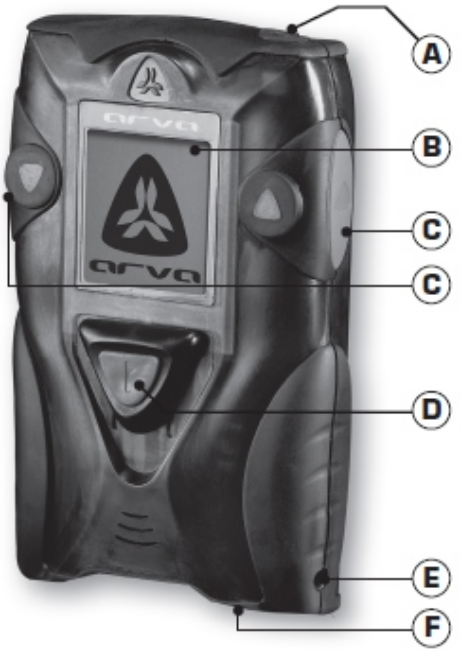
取 扱 説 明 書

www.arva-equipment.com

arva Link®

2012/2013

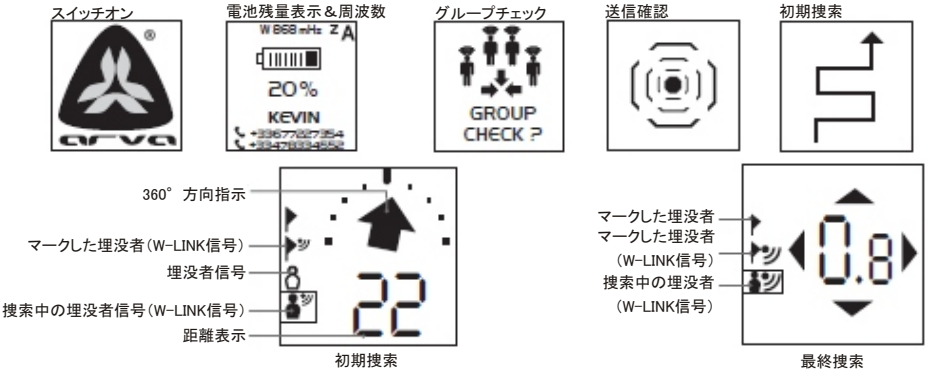
各部の名称と詳細



Ⓐ ON/OFFスイッチボタン
Ⓑ LCDスクリーン画面
Ⓒ （受信感度調整・メニュー選択・埋没者選択）ボタン
Ⓓ （発信/受信切替え・マーキング・メニュー確定）フラッグボタン
Ⓔ リストループホルダー
Ⓕ イヤホンジャック
Ⓖ ホルスター

ホルスターの装着

ホルスターは常に上着内側に装着し、他の装着物の邪魔にならないように装着して下さい。（アンダーウェアやスキーシールの保温の邪魔にならない様）
LINKを寒さや衝撃から守る為に上着を必ず着ることをお勧めします。もし、捜索時にLINKを使用する場合は、必ずホルスターのビーコン接続リングにしっかりと繋げて下さい。



この度はARVA LINKをお買い求め頂き誠に有難うございます。

ARVA LINKは最新技術によって開発されたビーコンです。

◎ 360° コンパス内蔵
◎ 2つのデジタル捜索モード（初心者モード、上級者モード）とアナログモード
◎ 送信モード自動切替えモーションセンサー
◎ 全てのコンディションにおいて50mの捜索幅（欧州スタンダードETS300718で生産された機器）
◎ 電池残量状況によって送信パワーに影響を及ぼさない457kHzビーコン
◎ MAMMUT PULSE®とARVA LINK 共通の868mHz帯の新しい周波数は互換性機器としてのパフォーマンスを高めます。（※日本国内では868mHzは使用できません。）
◎ 埋没者信号リスト、スクロール選択
◎ 発見埋没者信号のマークとマーク解除が可能
◎ 詳細設定モード
◎ ソフトバージョンアップが可能。（※詳細については未定）

ビーコンの使用と安全について

安全準備を行ってスキーに出かけても、常に雪崩の起こる可能性のある危険な世界へ踏み込む事になります。
もし、危険な場所へ出かける場合は、個人の責任で出かける事になる事を忘れないで下さい。

- **出発する前に:** 山岳ガイドや山専用サイト等から危険情報等を入手して下さい。そして必ず、自分自身で、ショベルやプローブを装備して下さい。ビーコンは雪崩を予知する機器ではありません。また、危険から身を守ることもできません。ビーコンを効果的に使いこなすには常に練習を行って下さい。出かける前は必ず事前に使用練習を行って下さい！
- **決して単独行動をしないで下さい。** また、偶然見かける様々なトレイルには絶対に立ち入らないでください。それらのトレイルは安全の保証が全くありません。もし、横断しなければならない斜面があった場合は、一人一人、ある程度の距離をとり交互に進みましょう。その場合、互いの存在に目を離さないように注意して下さい。
- **最後に立ち止まる時を理解して下さい。**
  特に注意するとき：雪質の変化のある場所は雪崩の危険があります！
- www.arva-equipment.com/experienceのサイト（フランス語）で
  雪崩について学び、訪れるツアールートについて先に準備を行う事をお勧めします。

ARVA LINKの使用方法:

ビーコン捜索はゆっくりと移動し、急いで動いて間違った方向に進まない様に気を付けて下さい。捜索は雪崩表面を全て捜索して下さい。
捜索中及び事前チェックを行う時は、あらゆる電子機器（高圧送電線、ラジオ、携帯電話、心臓ペースメーカー等）には近づけない、もしくは電源を切って下さい。 ペースペーカーは捜索モード時、ビーコンを混乱させる可能性があります。（※上記、電子機器が必ずしも悪影響を与えるとは限りません。）

その他標準的なビーコンやGPS等のトランシーバー機器にも同様の事が起ります。
進行方向表示はフラックスラインに沿って表示します。距離表示はメートルで表示されますが、直線的距離ではありません。

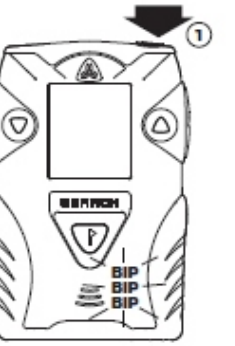
使用電池について:

ARVA LINKは単4アルカリ電池4本を使用します。マイナスドライバー又はコインを使用し、電池ボックスを開けます。
電池交換は必ず4本とも同じメーカーのものを使用し、交換時は4本同時に交換して下さい。電池をセットする場合、
電池ボックス内に記載された向きを確認し、間違いなく電池をセットして下さい。
接触端子には直接手を触れるのを避けて下さい。電池の消耗を防ぐ為に0°C以上の場所で保管して下さい。

※要注意:充電式電池、リチウム電池、オキシライド電池等、アルカリ電池以外の電池は使用しないで下さい。
アルカリ電池と違って他の電池は寒さに弱く直ぐに放電してしまいます。
もし、ARVA LINKを長期間(特に夏場)使用しない場合、電池を抜いた状態で保管して下さい。
(**注意**:電池ボックス内に液漏れがある場合、製品保証は適用されません。)

初めての起動(開封時)

図①のON/OFFスイッチを押して下さい。
本体上部右側のスイッチ(図①)を押すとスクリーン画面が点灯し、機器の機能
チェックを行います。(送信パワー、スクリーン、スピーカー等)

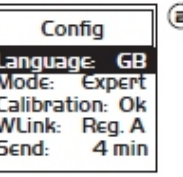


初めて使用する前に:

自動的に図②の様な「Settings」詳細設定メニューが現れます。
はじめに詳細「Settings」を設定します。

1.言語設定
2.ユーザー情報入力(名前、電話番号、緊急連絡先)
3.コンパス補正

各詳細入力モードへアクセスするには、本体中央の「フラッグボタン」Ⓓ(赤色)を
押して下さい。詳細選択を上下にスクロールするには左右にあるⒸボタンを押す
事でボタンに表示された方向にスクロールします。そして、「フラッグボタン」Ⓓ
(赤色)を押す事で確定する事が出来ます。
機器の設定をリセットをした場合は、再度同じ設定を行って下さい。
(詳細設定「Settings」メニューでは機能設定をリセットする事が出来ます。)
販売店等でﾃｽﾄの為に一度スイッチを入れ、自動で詳細設定「Settings」メニューが
起動しない場合は、詳細設定「Settings」メニューへアクセスして下さい。アクセス方
法は6ページを参照して下さい。



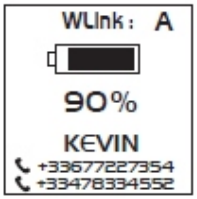
②

初期設定を行う:

- Language:言語設定(French/フランス語、**English/英語**、German/ドイツ語、
  Italian/イタリア語、Spanish/スペイン語、Norwegian/ノルウェー語、Japanese/日本語)
- ID owner:ユーザー情報(name:姓名、telephone number:電話番号)
  OK:詳細設定画面へ戻る ←:1文字戻る
- Calibration:コンパス補正(詳細設定は6ページ参照)
- Mode:モード選択「**Novice:初級者モード**(P.9参照)、Expert:上級者モード(P.10参照)」
- W-LINK:W-LINK地域選択(・RegionA/B:地域A/B ・**None:使用不可**)
  ※日本国内ではW-LINKは使用規制がある為、使用できません。必ず「None 」を選択して下さい。
  初期設定は「None 」に設定しています。
- Autosend:自動送信切替えシステム(4min:4分、**8min:8分**、off:機能停止)
- LCD:LCDスクリーン画面コントラスト調整
  (Very Low:とても暗い、Low:暗い、**Medium:普通**、Strong:明るい、Very Strong:とても明るい)
- Reset :リセット(一度全ての設定をリセットします。)
  ※一度リセットを行うと、全ての設定が初期状態に戻ります。
- Exit:終了(詳細設定メニューを終了します。)
- その他の詳細設定は6.7ページを参照して下さい。
  上記、「初期設定を行う」で下線が引かれたオプションが初期設定に設定されています。
  リセットを行わなければ、初期設定の状態です。

電源を入れる:

本体上部のON/OFFスイッチ(図①)を押して下さい。
起動すると自動診断機能を行います。(起動後は5分毎にセルフチェックを行います。)
自動診断機能はマイクロプロセッサー、アンテナ、電池残量、画面をチェックします。
スピーカーから3回ビープ音がなると正常に機能している事を示します。
同時にLCDスクリーン画面にW-LINK選択地域、電池残量(in%)、初期設定情報(性/名、電話番号等)を表示します。(図③参照)その後、LINKは送信モードに切り替わります。
本体正面上部に緑色のダイオードが点滅していれば、正常に動いています。
ダイオード点滅時は送信状態です。



③

起動時の画面
- W-LINK地域表示
- 電池残量表示
- ユーザーの名前
- ユーザーの連絡先
- ユーザーの緊急連絡先

注意!

送信信号発信直後にLCDスクリーン画面に**「Group Check」グループチェックを表示します。(図④参照)**
「Group Check」を起動するには画面が変わる前に本体中央のフラッグボタンⒹ を押して下さい。
「Group Check」画面で本体中央のフラッグボタンⒹを押すとLINKはグループメンバーの送信信号をチェックする為に最小受信感度(約1m相当の距離)のアナログモードに切り替わります。
グループメンバー各自がテスト機の前で送信モードに切り替えて下さい。テスターは全てのグループメンバーの送信チェックを終了すると、自身のビーコンを送信モードに切替え、同様に送信テストを必ず行って下さい。グループチェックを終了するには本体中央のフラッグボタンⒹを押すとグループチェックを終了する事が出来ます。グループチェックモード中に何も操作を行わなければ、自動的に送信モードに切り替わります。**ARVA LINK**は**機器に異常を検知した場合、5秒間長い警告音(ビープ音)を発します。**
この長いビープ音は5分後、10分後に再度警告音を発します。

④

グループチェック

異常警告音の3つの原因:

・電池残量が20%以下の場合(この状態でまだ連続送信48時間、捜索時間30分が可能です。)
電池残量警告の為にLINKは5秒間の長いビープ音を発します。この長いビープ音は5分後、10分後に再度警告音を発します。

・機能障害の場合(送信もしくはプログラムの問題)
5秒間の長いビープ音の後、LCDスクリーン画面に"Error"と表示されます。この長いビープ音は5分後、10分後に再度警告音を発します。

※もしこの様な"Error"が画面に表示された場合、そのビーコンのご使用はお止め下さい。
不具合ビーコンは近くの販売店、もしくは購入店でご相談下さい。

・送信パワー不足(457kHz)の場合:もし送信パワーが低下している場合、次の様なメッセージが表示されます。「PROBLEME EMISSION 457kHz」

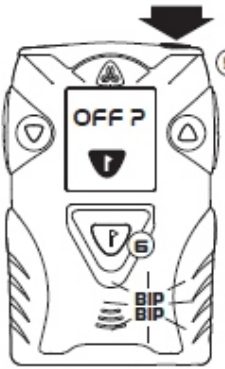
■送信パワー不足が一時的な物であればエラーメッセージは1回だけです。
(原因:大きい金属製物質が近接している可能性があります。)

■送信パワー不足が続く場合は5分毎にメッセージが表示されます。
(原因:電気的問題)

※この様なエラーが起る場合はそのビーコンは雪山へ持ち込まないで下さい。不具合の可能性があるビーコンは近くの販売店もしくは購入店でご相談下さい。

電源を切る

本体上部のON/OFFスイッチを押します。その後、ダブルビープ音がなり電源OFF可能状態になります。
(図⑤参照)LCDスクリーン画面上に「OFF?」と表示されると、本体中央フラッグボタンⒹを押します。
「OFF?」の表示中にしっかりとフラッグボタンⒹを押して下さい。
※失敗した場合は再度同じ操作を行って下さい。



⑤

電源を切る

送信/受信の切替え

送信モード時、送受信切替スイッチは誤操作を防ぐロックがかかっています。(図⑦参照)
受信モードへ切り替える場合、赤いフラッグボタンⒹを押しながら送受信切替えスイッチをダウンポジションにスライドして下さい。送受信切替えスイッチをダウンポジションにスライドすると捜索モードに切り替わり、「SEARCH」の文字を確認する事が出来ます。送信モードに切り替える場合は赤いフラッグボタンⒹを押しながら送受信切替えスイッチをアップポジションにスライドして下さい。アップポジションにスライドすると自動的に誤操作を防ぐロックがかかります。
ARVA LINKは送受信切替スイッチがダウンポジション中に送信モードに切り替わる場合があります。
これはソフトウエアーが自動復帰機能で送信モードに切り替えます。(P.11参照)

受信モードに切り替える為には:送受信切替えスイッチを一度送信モードに切り替え、その後直ぐに受信モードに切り替えます。

⑦

捜索モードに切り替える

ビーコンの設定–詳細設定メニュー（Settings）

必要に応じていつでも詳細設定メニューへアクセスする事が可能です。

電源を一度OFFにします。。（本体上部のON/OFF②スイッチを押します。LCDスクリーンに「OFF?」と表示されたら本体中央フラッグボタンⒹを押すと電源が切れます。P.5図⑤参照）
右図の①ボタンを左右同時に押して下さい。左右の①ボタンを押した状態でON/OFFスイッチ②を5秒間同時に押し続けます。

注意！画面にARVAのロゴマークが表示されてもそのまま5秒間押し続けて下さい。

言語設定：初期設定は英語（English）です。

言語を設定する為に：本体左右のボタン①でカーソルを上下にスクロールします。
選択したい言語の位置にカーソルを合わせフラッグボタンⒹを押し確定。
※右ボタン：カーソルがアップします。 左ボタン：カーソルがダウンします。
言語設定：フランス語（French）、英語(English)、ドイツ語（German）、イタリア語（Italian）、スペイン語（Spanish）、ノルウェー語（Norwegian）、日本語（Japanese）
次のユーザー情報入力も、同様にカーソルを操作して情報を入力して下さい。
ユーザー情報入力が必要ない場合は次に進んで下さい。

ユーザー情報を入力します。

ユーザー情報は3行で表示されます。

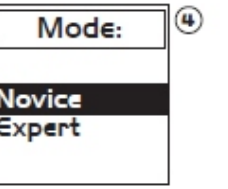
ユーザー：姓名を入力する事をお勧めします。もし、紛失してもユーザーの確認に有効です。
デンワ1：連絡先登録は、ユーザーの電話番号を入力する事をお勧めします。
デンワ2：緊急連絡先を登録する事をお勧めします。
このユーザー情報は電源をONにする度に画面に表示されます。

コンパス補正（図③参照）

この機能はスムーズな方向指示を表示し、正しい捜索方向を指示します。
LINKを正確に機能させるにはコンパス補正を行って下さい。特に長期行程のツアーに出かける場合や電池交換を行った場合はコンパス補正を行って下さい。コンパス補正を始める為にLINKを平らな面において詳細設定メニューから「Calibration」へアクセスして下さい。
ビーコンを水平に保った状態で補正が終了するまで図③の様に時計周りに回転させて下さい。
ビーコンは補正が終了すると詳細設定「Settings」メニューに自動的に戻り、画面に“Calibration OK”と表示します。

捜索モードの設定：図④ 「初期設定は初級者（Novice）です。」

初期設定モードは初級者（Novice）です。初めはこの初級者（Novice）モードで始める事をお勧めします。初級者モードは一番近い埋没者を自動的に捜索します。このモードで唯一利用可能な機能は発見埋没者をマークする事です。（複数埋没者捜索の場合）
マークを行うとLINKは次の埋没者の信号に自動的に切り替わります。上級者モード（Expert）では埋没者の捜索順番や「マーク/マーク解除」を行う事が可能です。
また、W-LINK機能を使用する事でより多くの情報を得る事が可能です。
※注意：日本国内ではW-LINK機能は使用する事はできません。



W-LINK地域の設定（初期設定：日本国内では使用規制がある為「None」に設定しています。）
警告：このモードは日本国内では絶対に変更しないで下さい。設定変更はユーザーの責任となります。

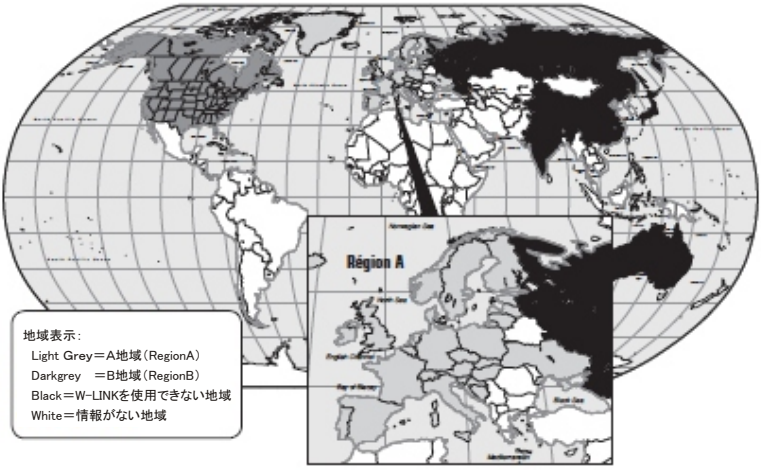
W-LINK周波数帯は国々によって規制され、権利で保護された周波数帯です。
いくつかの国々ではこの周波数帯を使用規制されています。使用規制地域の場合、詳細設定「Settings」メニューでW-LINK機能の機能OFF設定を必ず行って下さい。

※日本国内では電波法で規制されていますのでW-LINK機能は使用できません。

ユーザーは自分自身でこの周波数の機能停止、又は地域を切り替える設定を行う責任があります。
ARVA LINKを使用する国々の正しい周波数を確認し、使用地域の設定変更はユーザーの自己責任であり、製造者及び販売者は責任、訴訟等の一切の責任を負いかねます。

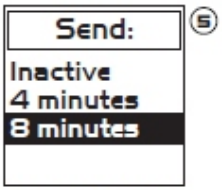
初期設定はA地域（RegionA）です。A地域とは：拡張ヨーロッパ地域（地図参照）
2010-2011、2011-2012シーズンはB地域（RegionB）では使用する事はできません。B地域とは：地図を参照下さい。
いくつかの国々ではこの技術を使用する事が出来ません。必ず使用できない国を下記の地図でお調べ下さい。
使用できない地域：黒色で塗られている地域です。（注意：日本は使用できない地域に含みます。）

警告！日本国内での出荷時は設定を使用不可「None」に設定しています。

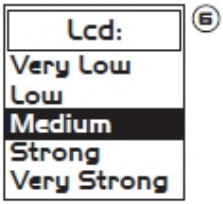


送信モード自動復帰システム（初期設定：8分）

ARVA LINKはモーションセンサーを内蔵しています。受信モード時、4分又は8分間、ユーザーの動きをモーションセンサーが感知しなければ、LINKは自動的に送信モードに切り替わります。
この機能は捜索者が二次災害に巻き込まれ、捜索（SERACH）モードから送信モードに切り替える時間がない場合に有効です。初期設定は8分で切り替わる様に設定されています。
（図⑤参照）
確認の為、LINKは捜索（SEARCH）モード状態にある場合、自動で送信モードに切り替える為に「SEARCH？」と確認画面を表示します。この様な場合、確認画面表示中に本体中央のフラッグボタンⒹを押さなければ、捜索（SEARCH）モード中であっても自動的に送信モードに切り替わります。



送信自動復帰システムの機能停止を行うことができます。：（送信モードへ自動的に切り替わらない設定）
送信自動復帰システムを停止すると、送受信の切替え操作時のみ切替を行うことができます。



LCDスクリーン画面のコントラスト調整（初期設定：Meduium）

周囲の状況によって画面の明るさを調整できます。（図⑥参照）

詳細設定をリセットする

リセットを行うと全ての設定が初期設定になります。

詳細設定の終了

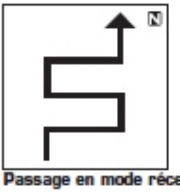
全ての設定が終了すれば、終了（EXIT）を選択する事で設定が保存されます。
その後、送信モードに切り替わります。
もし、詳細設定（Settings）メニューで1分間何もされない状態が続けば、LINKは自動的にセルフチェックを行い、送信モードに切り替わります。

捜索方法

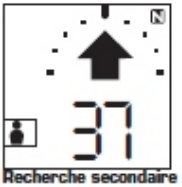
詳細設定(Settings)メニューでは2種類の捜索モードが選択できます。(初級者モード:Novice、上級者モード:Expert)
付け加えて、より多くの情報を収集する又は複雑な捜索ケースを解決する為にデジタルモード(初級者、上級者)からアナログモードへ容易に切替を行う事が可能です。
捜索モード画面右上には(デジタルモード:[N]又は[E] アナログモード:[A])と表示されます。下記を参照し、各モードの特徴を確認して下さい。

アナログモードへの切替え選択可能

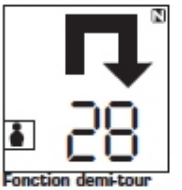
初級者モード N	上級者モード E	アナログ オプション A
・埋没者信号の受信数表示 ・発見埋没者信号のマーク可能 ・全ての埋没者信号にマークが可能 ・アナログモードへの切り替えが可能	・埋没者信号の受信数表示 ・発見埋没者信号のマークが可能 ・全ての埋没者信号にマークが可能 ・アナログモードへの切り替えが可能 ・W-LINK情報を表示 ・マーク解除が可能 ・埋没者信号の選択可能	・左右横の+/-ボタンを同時に押す事で簡単にモード切り替えが出来ます ・埋没者信号数を確認する事が可能 ・受信感度調整サポート機能 ・受信感度調整と距離表示 ・受信感度調整を手動ボタンで操作 ・画面表示で感度レンジを確認



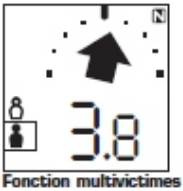
Passage en mode réception



Recherche secondaire



Fonction demi-tour



Fonction multivictimes

初級者(Novice)モード:初期設定:[N]に設定しています。

■初期捜索(アプローチ段階)

・送信モード状態から本体中央フラッグボタンⒹを押しながら切替スイッチをダウンポジションにスライドして下さい。LINKが信号を受信するまで画面上には図②のマークを連続的に表示します。
・雪崩跡をジグザグに捜索します。(図①参照)
・LINKを水平状態でやや下方向に向けて持ち、左右(振幅180° 以内)に動かして下さい。
・最初のクリア信号(画面に方向指示と距離が表示されます。図③参照)を受信するまで捜索を続けて下さい。

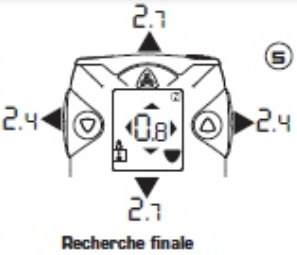
■二次捜索(ロケーティング状態)

この段階は埋没者からの信号を受信するとスタートします。
・信号を受信し、方向指示矢印が表示されると矢印を本体中央になる様にビーコンの向きを合わせて下さい。常に方向指示矢印が中央に向く状態を保ち前進して下さい。
もし、距離表示が減少しているのであれば、埋没者へ近づいています。
もし、間違った方向へ進んでいる場合は図④の矢印が表示されます。一度、反対側へ振り返り距離表示が減少する方向へ進んで下さい。
さらに捜索を続け、距離表示が一番減少する方向へ進んで下さい。

・**複数埋没者の場合、**LINKは画面左に埋没者信号の数を表示します。そして、一番近い埋没者信号を自動的に捜索します。捜索中の受信信号を図⑤の様に四角い「選択フレーム」で表示します。距離表示が約3.0を表示するまで前進を続けて下さい。

捜索方法

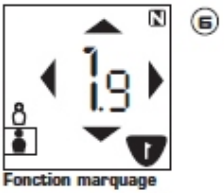
■ 最終捜索(最終段階)図⑤参照



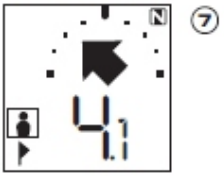
Recherche finale

距離表示が約3.0に近づくとLINKを水平にし、進行方向を保ったまま雪面にできる限り近づけます。ビープ音は速くなり、距離表示は減少します。
さらに最小数値を表示する場所まで前進して下さい。距離表示が上昇し始めたら一度立ち止まり、上昇し始めた場所まで戻り、**クロステクニックを使い再度LINKを水平に保って正しい方向を探します。**
最終段階に於いては最小距離表示を確認する為に、常にLINKを同一方向に保ち位置確認を行って下さい。※注意(右手、左手と左右に持ち替えを行わないで下さい。)
ビーコン捜索に於いてピンポイントの位置を確定する事が重要ではありません。おおよその位置(50cm以内)を特定できたなら直ちに救出作業へ移る方が早く救出することができます。

受信信号をマークする:



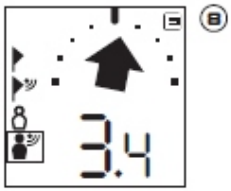
Fonction marquage



距離表示が3.0より減少するとLINKは受信信号をマークする事が出来ます。画面右下にマークアイコンが点滅します。(図⑥参照)受信信号をマークすると直ぐにプローブ等で目印をして下さい。マークを行うには本体中央のフラッグボタンⒹを押します。
LINKはマークする事によって一番近い受信信号をロックします。(図⑦参照)画面上の選択フレームは、現在捜索中の埋没者信号を表示しています。そして、発見マークされた受信信号は ▶ アイコンによって表示されます。続けて次の受信信号の捜索を続けて下さい。
全ての受信信号をマークすると、LINKはアナログモードに切り替わります。そして画面に「X」サインを表示し、さらに全ての雪崩の範囲を捜索するように促します。

注意: ほとんどの場合、マークは問題なく機能します。しかしながら、いくつかの信号が重複した場合に切り離す事が難しい場合もあります。また、複数埋没者(4人目以降の信号)の信号をマークする事はできません。
その場合、警告メッセージ「砂時計アイコン」が表示されるかもしれません。
それでも駄目な場合は、再度同じ捜索を行うか、あるいは発見率を高める為に「3サークル方法」又は「マイクロストリップ方法」を使用して捜索を続けて下さい。

上級者モード (詳細設定「Settings」メニューから設定します。)



この上級者モード(Expert)は初級者モード(Novice)と同様に操作します。
このモードでは捜索者はより多くの情報を入手する事が出来ます。(図⑧参照)
上級者モード(Expert)は、熟練救助者、もしくは遭難事故が起きてもセルフレスキューを行える救助者にお勧めします。

▶ マーク済アイコン
8 埋没者アイコン
▶ W-LINK信号を発信しているマーク済アイコン
8 W-LINK信号を発信している埋没者アイコン
□ カーソルフレーム

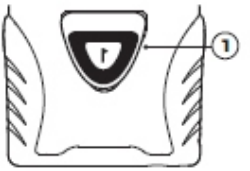
1.0 埋没者アイコンのスクロール

LCDスクリーン画面左側に埋没者信号リストを表示します。捜索者は受信信号の方向や距離を見極めながら埋没者信号をスクロールし、選択する事が出来ます。
LINKは標準的な機能を備えたビーコンを持った人達が、複数人で捜索活動を行うのと同様に捜索を行うことができます。左右のボタン(図⑨参照)を押す事で埋没者号をスクロールする事が出来ます。
現在捜索中の埋没者信号はアイコンが黒く表示されます。そして、埋没者までの方向と距離の情報を表示します。一度、送信モードに切り替えて受信モードをリセットするとLINKは最も近くの埋没者信号にロックします。

2.0 W-LINK情報　※W-LINK機能は日本国内では電波法により規制されており使用できません。

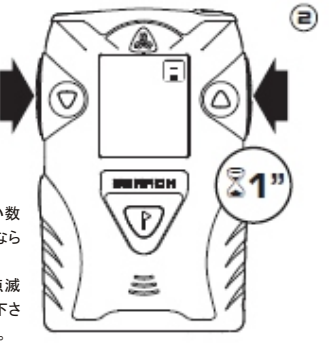
W-LINK無線方式はARVA LINK®とPULSE MAMMUT®と互換性があります。
（※国内では使用できません。）
これらの機器はデータの信頼性を高める為にお互いに情報を送受信する事が出来ます。
W-LINK技術を内蔵した機器は埋没者信号リストを表示する事でより速く、より確実にマークをする事が出来ます。上級者モード（Expert）では埋没者アイコンの横に ツ アイコンが表示されます。このアイコンはW-LINK周波数によって届けられた受信信号を意味します。
W-LINKで受信した信号は混信する事無く、確実にマークする事が出来ます。

3.0　マーク/マーク解除



初級者モード（Novice）でも同様に受信信号をマークすると ▶ が表示されます。
このモードでは一度マークした受信信号にカーソルフレームを合わせ、本体中央のフラッグボタンⒹ（図①）を押す事でマーク解除をする事ができます。
マーク/マーク解除はマーク信号から3m以内でしか操作する事ができません。
3m以上の距離がある場合は偶然のマークを防ぐ為にマーク機能は使用する事ができません。

アナログモード 「初級者モード（Novice）、上級者モード（Expert）どちらでも切替え可能」



アナログモードへの切替えは本体左右のボタンを同時に1秒間押して下さい。（図②参照）
アナログモードに切り替わると画面右上に マークが表示されます。
このアナログモードでは受信感度を調整する事が可能です。
本体右側のアップボタンを押すと受信感度が強くなります。同様に左のダウンボタンを押すと感度が弱くなります。受信した埋没者信号の受信数を画面左上に表示します。

画面で受信感度を確認する：（図③参照）
もし、埋没者が近接埋没者状態で、受信感度が敏感で画面に表示される数値が非常に高い数値もしくは非常に低い数値を表示する場合は、表示情報が間違っているか、あまりあてにはならないでしょう。
LINKはアナログモード時、最適な感度調整を行う為のサポート機能があり、画面の左右に点滅矢印表示で感度調整のアップ/ダウンを表示します。この点滅矢印に従って感度を調整して下さい。この点滅矢印表示が消えると受信感度が正しい感度レベルになっていると理解できます。

アナログモードは方向指示表示がありません。受信音と距離数値によって埋没者位置を捜索します。

LINKをアナログモードに切り替えると感度レベルバーは最大9段階表示します。
本体右側のアップボタンを押す事で感度レベルをアップする事が出来ます。
感度レベルを最大にアップすると感度レベルバーは画面上には表示されなくなり、非常に弱い受信信号だけ受信しやすくなります。受信感度をアップする事で受信感度を高くできます。
感度レベルを弱くすると感度レベルバーは再表示されます。

アナログモードでの捜索は複雑です。アナログモードでの捜索は多くのトレーニングを必要とします。

捜索者は最も強い信号音を聞きわけ、一番近い距離表示を探し出さなくてはなりません。
LINKを進行方向に向け捜索を行って下さい。さらに、オプションのイヤホンを使用する事で、より確かな信号音を確認する事が出来ます。

重要な情報

■ W-LINKについて

W-LINKは国際標準規格457kHzの信号によって送信された情報を補助し、確実に実行する為の交換プロトコルです。
新しいプロトコルとは:

- 国際標準周波数信号による送信/受信が限界に達する複雑な複数埋没者状況を解決します。
- より正確な埋没者人数を表示します。
- 正確に埋没者信号をマーク/マーク解除を行う事が出来ます。
- 最初に捜索を行う埋没者を選択する事が出来ます。(捜索過程に於いて何らかの情報がなければ信号発信埋没者の身元は分かりません。)必ずしも最も近い埋没者へすぐに近づく必要はありません。

■ エラーメッセージについての情報

もし、捜索中に複雑な複数近接埋没者がいる、又は激しい電波干渉がある状況ならば、正しい情報を表示する為に少し時間がかかるかも知れません。この様な場合 ⌛ マークが画面に表示されます。
もし、このマークが現れた場合は、正しい方向を表示するまで数秒間、LINKを動かさないで下さい。

■ 送信モードへ自動で切り替わる場合

LINKは下記の状況の場合、自動で送信モードに切り替わります。

- 間違って捜索(Search)モードポジションの状態で電源をONにした場合、自動機能チェック後送信モードに切り替わります。画面に「Search?」と表示し、捜索モードへ切り替えますか?とメッセージを表示します。同時に画面にフラッグマークが点滅します。捜索(Search)モードへ切り替える場合は本体中央のフラッグボタンⒹを押して下さい。
  もし、フラッグボタンⒹを押さなければ10秒後に送信モードに切り替わります。

- もし、捜索(Search)モード状態で、全く動きがない場合、4分もしくは8分で自動的に送信モードに切り替わる設定を行う事が出来ます。自動復帰の設定時間が過ぎるとLINKは画面に「捜索(Search)モードを続けますか?」と表示します。
  捜索(Search)モード状態を続ける場合は本体中央のフラッグボタンⒹを押して下さい。
  もし、10秒間の間にフラッグボタンⒹを押さなければLINKは自動的に送信モードに切り替わります。

- 5分間以上、グループチェックを行う場合:この時間が過ぎると「グループチェックを続けますか?」と画面に表示します。
  グループチェックを続ける場合は本体中央のフラッグボタンⒹを押して下さい。
  もし、10秒間の間にフラッグボタンⒹを押さなければLINKは自動的に送信モードに切り替わります。

■ スタンバイ機能について

この機能はユーザーが救助者として雪崩上にいる場合に使用する必要があります。救助者としてプロービング、ショベリング、又は他の捜索者と情報交換を行っている等、他の作業を行っている場合、LINKを使用できる状態ではありません。このような救出状況の場合では捜索方法を混乱させない為に自身のビーコンを送信モードに切り替えることができません。
また、大きな音やノイズを出さない為に捜索(Search)モードに切り替える事も望ましくありません。
にも関わらず、二次災害に備えて電源を切る事はできません。
このスタンバイ機能を起動させておく事によって万が一、二次災害等に巻き込まれた場合、LINKは4分間身体の動きが全く無い状態が続けば、自動的に送信モードに切り替わります。

スタンバイ機能(STAND BY)を起動するには:(捜索モード時のみの機能)

- 捜索(Search)モード状態でON/OFFスイッチを2回押し、本体中央のフラッグボタンⒹを押します。
- スタンバイ機能が起動すると画面に「STAND BY」、「EXIT BY」と点滅を繰り返します。

スタンバイ機能を終了するには:ON/OFFスイッチを押します。

arva Link® Version 1.3 - 2010/2011

■ Victim Plus機能

画面上部にVictim Plusマーク が表示される場合があります。これは現在捜索中の埋没者信号より強い信号が見つかると表示されます。このVictim Plus機能は複雑な複数埋没者捜索時に有効です。
捜索モードに切り替えるとビーコンは埋没者信号を受信します。そして、強い信号から弱い信号に画面に表示します。
捜索エリア内を動く事によって埋没者信号の強弱順位は変わります。

下記の2つの状況があります。
ノーマルモードの場合：このVictim Plusマーク が表示されるとより近い埋没者信号に自動的に変わります。
エキスパートモードの場合：このVictim Plusマーク が表示されるとより近い埋没者信号がある事を意味します。
エキスパートモードはより近い埋没者信号に自動的に切り替わりません。

ARVA LINKはVictim Plusマーク が表示されると、埋没者信号リストをスクロール して信号を確認するようにアドバイスをします。

FCC requirements: - FCC ID: C9BARVAADV3

NOTE: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.
- Information to user: Changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

RoHS 2002 / 95 / EC

■ テクニカルデータ

- 国際標準規格：457kHz
- トリプルアンテナ内蔵
- 埋没者信号選択アイコン表示
- スタンバイ機能
- マーク/マーク解除機能
- 最大受信距離：70m　捜索受信幅：50m
- デジタル捜索モード（初級者モード、上級者モード）+アナログモード
- 重量：260g（電池含む）
- サイズ：115×73×20（mm）
- バッテリー寿命：送信約250時間
- 単4アルカリ電池4本使用
- イヤホンジャック付
- 専用ホルスター付
- 欧州標準規格：ETS300718